五感を潤す湖畔の宿で一期一会の心に癒される。

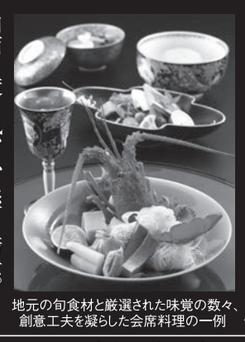
琵琶湖を一望する
解放感抜群の展望風呂
「三上の湯」

凜とした雰囲気の中、静寂のロビーから望む
旅情漂う中庭に心が和む

ワンランク上の空間「京近江」に用意
された、風光明媚な露天風呂付客室

おごと温泉最大の規模を誇る宿。
観光の拠点として利用したい

湖面を渡る風、心に響く情景。
ここは上質な大人の時が流れる


地元の旬食材と厳選された味覚の数々、
創意工夫を凝らした会席料理の一例

会議室
「塩津」

宴会場
「京友禅」

びわ湖畔　おごと温泉
琵琶湖グランドホテル
Tel077-579-2111（予約専用）077-579-0111

琵琶湖グランドホテル別館
京近江
Tel077-577-2211（予約専用）077-577-2000

〒520-0101 滋賀県大津市雄琴6-5-1　http://www.biwakogh.co.jp

ヒューリックホテルマネジメント株式会社

THE GATE HOTEL　VIEW HOTELS

進化する金太郎温泉
2010年から客室をはじめ、館内の様々な施設をリニューアルしております。
お客様にとってより心地の良い空間をめざして金太郎温泉はこれからも進化し続けます。

日本の名湯
北陸 富山 金太郎温泉 光風閣
TEL 0765-24-1220
〒937-0013 富山県魚津市天神野新6000
金太郎温泉　富山　検索　https://www.kintarouonsen.co.jp

北陸新幹線
黒部宇奈月温泉駅
シャトルバスで10分

日帰り温泉 カルナの館
TEL 0765-24-1221

湯村温泉・朝野家で
過ごす最良のひととき

朝野家（あさのや）

茶道・華道・香道の和心が息づくおもてなし。そして、湯の香感じる
源泉かけ流しの温泉と、季節の料理との美しい調和をご満喫ください。
〒669-6821 兵庫県美方郡新温泉町湯 1269
TEL:0796-92-1000　FAX:0796-92-2010　www.asanoya.co.jp

地域観光

地域創生と観光ビジネス

第91回

2026年日本の観光を占う アウトバウンド完全復活

あけましておめでとうございます。預言者ではないけれど、今年の日本の観光を占うなら、ずばり「アウトバウンド回復の年」とお伝えしたい。

コロナ禍からの復活は当初、航空座席数が早くて24年下期に、25年には完全にコロナ過前に戻ると予想されてきた。間違いなく昨年は夏ダイヤが対19年を上回り、観光産業の回復力の強さをみせつけた。爽快だった。

しかし実際の利用者割合をみると、円安を背景にした訪日外客が多勢を占め、日本人アウトバウンドは回復が遅れたままだった。だが26年は、間違いなく完全復活へとかじを切るだろう。

動き始めたのは各国政府観光局である。欧米に大洋州、中国を除くアジア各国、さらには南半球の国々も、さまざまなプロモーションを日本で展開する予定だ。

高市政権は、不動産取引をはじめとした外国人規制の強化に乗り出した。中国との関係悪化を受け、これまでインバウンド頼みだった経営軸を少しずつ修正する観光系企業が多くみられる。誰もがクールに粛々と進めることこそ観光立国・日本のあるべき姿と言えよう。

そうしたなか今年は、近場では韓国、遠方では欧州が狙い目とみている。

昨年、筆者は3回、訪韓する機会を得た。それもソウルや釜山を玄関口に統営や公州という地方都市を訪ねた。例えば、忠清北道の清州空港が、日本の成田や茨城と結ばれている。LCCを中心に、日韓の地方都市往来が活発になるだろう。

韓国の観光政策は近年、中国市場に偏りがちだった。だが近ごろは、違う動きが活発化している。若い世代を中心に文化・芸能面で、双方の距離がさらに縮まっていることが背景にある。韓国の政治家は思惑をもって反日を掲げてきた。だがそれが、「単なる扇動でしかない」と気づいた若者たちは日韓の未来を明るく照らす。垣根が低くなっている。

もう一つが欧州である。コロナ禍が明けて以降、海外旅行を我慢してきた人たちが、ハワイや台湾、タイなどの親日国から海外旅行を再開した。それが一歩進み、今年こそ「再び欧州を」と考えている人が少なくない。

こうした動きは、海外渡航自由化からの夜明けの日本に似ている。当時との違いは国民の所得である。バブル期にかけて中流層が爆発的に増えた時代とは異なり、今は二極化が進んでいる。海旅目的地も変容が如実だ。

ターゲットは筆者世代、すなわちバブル期世代だ。定年退職が始まり、退職金を手にし始めた。若きころ訪ねたロン・パリ・ローマなど遠方の地へ、再び訪ねたいと計画を立て始めている。1都市滞在型での旅や、客船クルーズが今年は好調になるだろう。

26年は、かねてより台湾有事の可能性が示唆されてきた「X」の年である。その理由は「知る人ぞ知る」だったが、首相の発言で白日のもとにさらされた。観光は平和産業であり、日本の基幹産業である。産業界の叫びを世界に届けることも重要だ。

私的には、有限会社千葉千枝子事務所設立30周年、NPO法人交流・暮らしネット設立20周年、大学教授就任10周年の節目の年。さらなる飛躍を誓いたい。

（淑徳大学経営学部観光経営学科学部長・教授　千葉千枝子）

＝隔週掲載

学生対抗九州観光ビジコン2025

福岡大が最優秀賞

九州観光機構（唐池恒二会長）は12月13日、JR九州ホール（福岡市博多区）で「学生対抗九州観光ビジネスプランコンテスト2025」の本選を開催した。九州へのリピーター増加を目指すビジネスアイデアをテーマに、学生たちが斬新な発想と綿密な計画性を競い合った。最優秀賞は福岡大学のチームが受賞した。

4回目となる今回のコンテストには、最終的に38校70チームからプランが提出され、前年を上回る活況を呈した。

特に九州外からの参加チームは、前年の16チームから30チームと大きく増加しており、全国的な注目度の高まりを裏付けている。厳正な審査を経て選出された10チームが本選に臨んだ。

最優秀賞は福岡大に

審査委員長を務めた唐池会長はあいさつで、「観光において最も重視すべきはリピート率である。今回はまさにリピーターを増やすためのプランを提出いただいたことに大きな期待を寄せている」と述べ、テーマの重要性を強調した。

また、前年の最優秀賞受賞プランである中村学園大学の「ラーケーションプラン」が、九州観光機構によって実際に事業化（旅行商品化）されたことに触れ、同コンテストが単なる学生イベントにとどまらない、九州観光の新たな事業発掘の場となっていることを示した。

本選に出場した10チームのプレゼンテーションは、いずれも高い完成度を誇っていた。持ち時間10分の中で、テーマ、現状の課題分析、目的、具体的な事業内容、販売計画、収支計画までが網羅され、学生らしい独創性と、現実的なビジネスへの落とし込みが両立されていた。

九州外からは、広島大学、同志社大学、近畿大学の3校が選出されており、九州を「外の目」で捉える斬新なアイデアも目立った。

審査の結果、最優秀賞に輝いたのは福岡大学「よかたい」チームによる「九州まるごと！Campus Festa！」―食べる・舞う・繋がる―。

このプランは、毎年2万人を集客する大学の学園祭を、地域外の食や芸能と連携させることで、「地域をつなぐ観光イベント」へと進化させるビジネスモデルを提案したもの。

学園祭を起点とした新たな地域と観光振興のモデルを構築することで、学生という若い力を地域に呼び込み、地方活性化につなげようという試み。

提案の核心として、「地方に若い力が欲しいならば、『若者に来てもらおう！』という受け身はやめて、『若者のところへ突っ込め！』というメッセージを発信すべきだ」という、主体的な姿勢を打ち出した点が特に高く評価された。

また、優秀賞には同志社大学「やきにくカルテット」チームの「ひなたあつめ―アルバムに思い出を集める『ページラリー』の旅―」が選ばれた。かつて「新婚旅行のメッカ」だった宮崎を舞台に、「思い出の継承」を軸とし、3世代での旅行を提案するという、情感に訴えかけるビジネススキームが審査員の注目を集めた。

審査員を代表し、清水信彦氏（西日本鉄道専務執行役員）が総評を述べた。清水氏は「九州外からの参加校が昨年より倍増し、外からの目で九州を見るビジネスプランは非常に興味深かった」と、参加層の広がりを歓迎した。

さらに、「参加者のほとんどが女性だったのが特徴的であり、女性の活躍が目覚ましいと感じた」と指摘。そして、総じて地域課題を深く掘り下げ、解決を目指す問題解決型のプランが多かった点を高く評価し、若い参加者たちの熱意と質の高さを称賛した。

冬イベントなど最新情報提供

広島・廿日市・呉・岩国

本社訪問　観光大使やミス

広島県の広島市、廿日市市（宮島）、呉市、山口県の岩国市の観光宣伝隊が12月10日、東京の観光経済新聞社を訪問し、この冬のイベントをはじめとした各地の最新情報を提供した。

広島観光親善大使の内藤陽まりさんは、1月3日まで広島市内中心で開催中の光のイベント「ひろしまドリミネーション2025」をアピール。

（左から）広島観光親善大使の内藤さん、宮島観光親善大使の宮郷さん、ミス岩国の岩本さん

「おとぎの国」をテーマに、「黄金色のシャイニングキャッスル」や広島カープ、サンフレッチェ広島のオブジェなど、幻想的なイルミネーションが夜の街を彩る。

宮島は世界文化遺産登録から30周年を迎える2026年にさまざまなイベントを用意している。宮島観光親善大使の宮郷結愛さんは、春の桜、夏の「管絃祭（かんげんさい）」（厳島神社最大の神事）など、四季を通して楽しめる同地の魅力を紹介した。

ミス岩国の岩本音葉さんは、世界遺産登録を目指す錦帯橋や、同市出身の小説家、宇野千代氏をモデルにしたNHK朝のテレビ小説「ブラッサム」が26年秋から放送されるなど市のトピックスを紹介。各地に点在するゆかりの地を訪れてほしいと呼び掛けた。

3人は地元の食もアピール。「お好み焼きだけでなく、汁なしタンタンメンもおすすめ。辛さやトッピングを選べます」（内藤さん）。「種類豊富なもみじまんじゅうやカキ料理、あなごめしなど、いろいろあります」（宮郷さん）。「岩国ずしが有名ですが、もう一つ好きなのが大平（おおひら）。汁の多い筑前煮のようなもので、祖母から学んで私もよく作っています」（岩本さん）。

呉市では、現在リニューアル工事中の大和ミュージアムが26年4月にオープン予定。戦艦大和の実物資料など、展示が拡充される。